

(2) 苫小牧測候所

苫小牧市は勇払原野の豊かな森林と水に恵まれて、早くから紙のまちとして栄えた。その後、苫小牧東部開発が進み、昭和38年わが国初の内陸掘込港として開発以来、北海道を代表する工業都市として発展している。

苫小牧地方の気候は、冬は雪が少なく晴天の日が多いが、夏は海霧の移流が多くなる。秋はさわやかな青空がもどるが、地形の影響で本道でも有数の局地的大雨地帯としても知られている。

苫小牧測候所は、昭和17年に中央气象台苫小牧観測所として市内矢代町に創設された。本年6月、446年間の歴史にピリオドを打ち、同市しらかば町に新庁舎が完成した。

新庁舎の概要

位置 苫小牧市しらかば町1-15-13
(北緯42°37' 東経141°33')

敷地総面積 1,945 m²

庁舎延面積 508 m²

庁舎 鉄筋コンクリート 1部3階

1階 地震観測室、器材・工作室

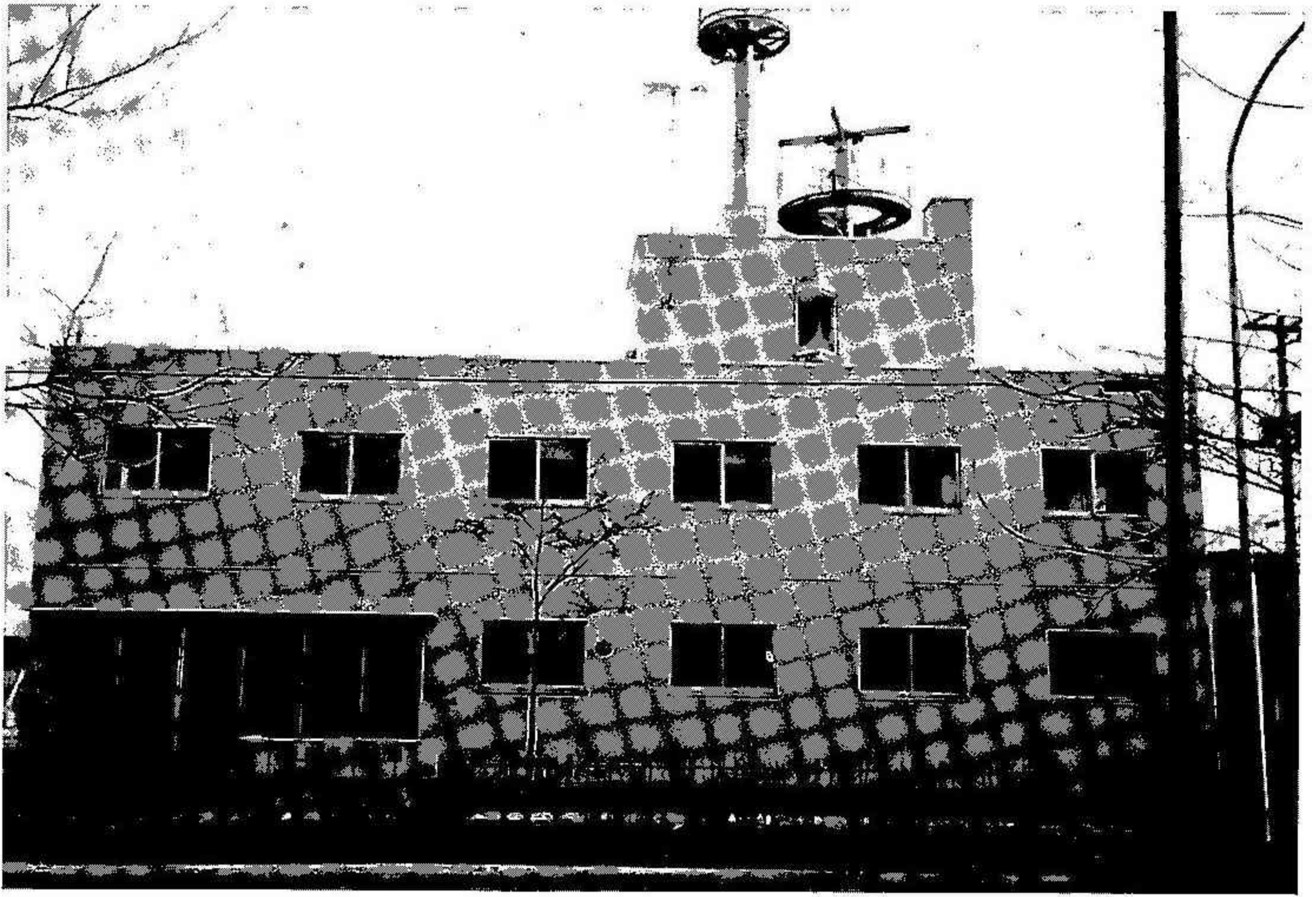
2階 地上観測室、通信室、事務室、所長室

3階 塔屋

新庁舎はJR糸井駅の裏手にあり、周囲は閑静な住宅地で気象観測には良好な環境にある。玄関は総ガラス張りで自動式、ロビーも広く大変感じが良い。業務の流れを工夫して観測室、通信室、事務室が2階に集められている。測候所の主業務でもある樽前山の遠望観測と海霧観測のために、現業室は西側面に配置されている。また事務室、所長室の居室も南よりの採光が配慮されるなど明るい近代的な建物である。

庁舎移転に伴って地震計が更新された。新しい地震計は87型電磁式強震計(型式 AMDA-88)で、大地震でも振り切れがなく完全記録の取得と長周期の地震波を測定して、津波予報の精度向上を目的にした装置である。計測部は庁舎より北東約10km離れた北海道大学演習林内に設置されており、これよりNTT回線によって測候所の処理部に伝送され記録計に出力される。これまで見通しがわるかった樽前山の遠望観測強化と共に、苫小牧測候所の活躍が期待される。

(苫小牧測候所)



苫小牧測候所新庁舎

